

「第3回児童の性的搾取に反対する世界会議（2008年リオ会議）」フォローアップセミナー—インターネット上の児童の性的虐待画像（児童ポルノ）根絶に向けて—

平成24年6月2日（土）
国際連合大学本部

スウェーデン王国王妃シルビア陛下、

本日の『「第3回児童の性的搾取に反対する世界会議（2008年リオ会議）」フォローアップセミナー—インターネット上の児童の性的虐待画像（児童ポルノ）根絶に向けて—』が王妃陛下ご臨席のもとに開催されますこと、とてもありがたく、日本国関係者一同心より感謝申し上げます。残念なことに、他の行事と重なり、今回は王妃陛下のお供をすることが叶いませんでしたので、メッセージを送らせていただきます。

私が本セミナーのテーマである子どもの性的搾取問題について真剣に考える切っ掛けとなったのは、シルビア王妃陛下が名誉総裁を務められた1996年の第1回世界会議の直後に、王妃陛下のご臨席のもと、東京のスウェーデン大使館で開催された、第1回フォローアップセミナーです。そのセミナーでは、子どもたちの被害をこれ以上拡大させないためにも、状況は“待った無し”だという言葉が、さまざまな方々から訴えられていたと記憶しております。その後、2001年12月に、日本政府、UNICEF（国連児童基金）、国際NGOであるECPAT国際ナショナル及び児童の権利条約NGOグループの共催により、横浜にて第2回児童の商業的性的搾取に反対する世界会議が開催されました。その時も王妃陛下にご臨席いただき、オープニング・セレモニーでは心のこもったお言葉を賜りました。日本では、横浜会議を目前に、森山眞弓衆議院議員（当時）等のご努力により、1999年5月18日に衆議院本会議で「児童買春・ポルノ禁止法」が可決し、そして2000年11月に「児童虐待防止法」が施行され、児童の人権保護の法整備が大きく前進したときでした。

2001年の横浜会議では王妃陛下と一緒に、また後日単独で、この問題にかかわっている方のお話を直接うかがい、いくつもの会議やワークショップ、セミナーに出席したことを昨日のように覚えております。最初のフォローアップセミナーが15年ほど前、横浜会議が11年前です。待った無しと言いながら、子どもたちにとっては自分たちの人生より長い時間が経過してしまいました。苦しんでいた子どもたちのうち何人の人権を守ることができたか、またその後も同じような苦しみを味わっている子どもが世界に何人存在するか考えると、心が痛みます。しかし、そのような事を言っているうちに子どもたちを取り巻く環境は大きく急激に変化し、新たな対策や取り組みが必要な状況が生まれてきました。

本セミナーが、今回特に焦点を当てるインターネット上の「児童ポルノ」の問題については、事件の報道を目や耳にしない日は無いと言っても過言ではありません。さらに、その多くが、国境の

無いインターネットでの“出来事”であることを考えれば、こうした報道で伝えられるものは、恐らく、氷山の一角にしか過ぎないのでしょう。本日は、各国間の捜査協力や、民間事業者による対策に関する発表やパネルディスカッションも開催されると聞いておりますが、このような機会を通して、世界中で子どもたちを性的搾取の脅威から守り、世界のすべての子どもがより良い環境で健やかに育ち、そして世界の平和と安定がもたらされることを願っております。

被害に遭ったり、そのリスクに晒されている子どもたち一人ひとりにとって、「一つしかない命/一つしかない人生」です。そもそも、私たち大人がなぜ子どもたちに対してこのような犯罪を繰り返せるのか、不思議でありませんが、目を背けてはならない現実です。他の人がやっているから自分もと考えることや見てみぬ振りをすることは、よくある行動と言わざるを得ません。しかし、実に軽率であり、無責任です。需要と供給の観点からみると、児童ポルノは需要があるから商業的に成り立つわけで、各国で需要をなくすべく社会に向けての細やかな啓蒙活動が必要不可欠と考えます。児童の商業的性的搾取の問題は、家庭や教育などの観点を含め、社会全体として対処すべき問題であり、今回のフォローアップ・セミナーがこの問題の根絶に向けて有意義なものとなることを心より願っております。

高円宮妃久子